



EM-511C

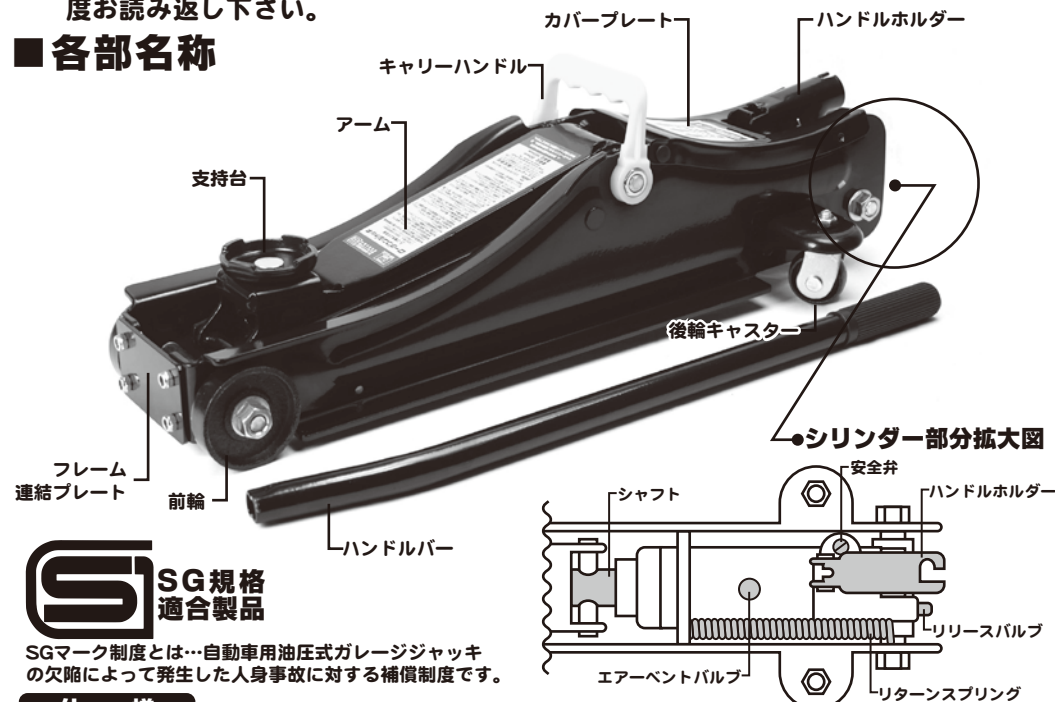
## エマーソン ローダウンジャッキ2t

## 取扱説明書

この度は「エマーソン ローダウンジャッキ 2t」をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。

本製品を正しく安全にご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読み下さい。また、読み終わりましたもこの取扱説明書を大切に保管の上、必要の都度お読み返し下さい。

## ■各部名称



SGマーク制度とは…自動車用油圧式ガレージジャッキの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度です。

仕様	
品番	EM-511C
商品名	エマーソン ローダウンジャッキ2t
最低位	80mm
最高位	380mm
ハンドルバー	長さ470mm
ストローク	300mm
使用温度範囲	-20℃~45℃
油量	130cc
最大使用荷重	19.6kN
最大揚程質量	2.0t(※車両重量ではありません)
重量	本体重量 12.0kg/総重量 13.6kg
本体サイズ	幅206×高さ130×長さ566mm

※改良のため、予告なく仕様及び外観の変更をすることがあります。

※安全弁は絶対に回さないで下さい。工場での生産時、オーバー荷重を防ぐために調整されています。



この製品は日本国内で企画・設計し中国で生産しています。



注意  
※ご使用の際は必ずお車の車高をご確認下さい。また、バンパーの形状によっては干渉する恐れがありますのでご注意下さい。  
※一部車種によりジャッキの最高位に達してもタイヤが浮かない場合があります。

## ■安全上のご注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

- 本製品を正しく安全にご使用頂くため、ご使用前にこの「安全上のご注意」を必ずお読みになり、よく理解したうえで正しくお使い下さい。
- この取扱説明書は大切に保管のうえ、ご使用中に分からなくなった時など、必要な都度、お読み返し下さい。また、他の人が使用する場合も同様です。
- ここに示す注意事項は、本製品を正しく、安全にご使用頂くためのもので、本製品を使用する方や、周囲への危害や損害などを未然に防止するものです。

## ■使用上の注意と警告マーク

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示します。

## ■ご使用前の注意と警告

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。



**警告**

- 本製品は、自動車をジャッキアップ・ダウンするためにご使用頂くもので、ジャッキアップ状態を維持するためのものではありません。また、作業中、車両の下に頭を入れたり、体ごと入っての作業はおやめ下さい。
- 本来の目的以外で使用しないで下さい。
- 投げる・落とす・叩くなどの衝撃を与えないで下さい。
- 本製品の分解や改造をしないで下さい。本来の性能を発揮できないばかりか、ジャッキが破損し、危険な場合があります。
- 本製品は、気温-20℃~45℃の範囲内でご使用下さい。
- 本製品は19.6kN(2.0tの質量)以内でご使用下さい。使用限度荷重を超えて使用すると、ジャッキの破損やアームが下降する恐れがあります。
- 必ず各車両指定のジャッキアップポイントでご使用下さい。分からない場合は、自動車の販売店やガソリンスタンドなどで確認して下さい。
- 本製品に標準装備の支持台はジャッキアップの際、サイド掛けにはご使用頂けません。サイドで使用する場合は別売のサイド掛けアダプターをご使用下さい。
- お車から人や物を降ろしてからご使用下さい。
- 作業の前に、車両の周囲に人や子供、他の車両、物などが無いことを確認して下さい。
- ご使用前に無負荷の状態ではジャッキアップをし本製品に異常がないか確認して下さい。作動油の漏れ、アームの曲がり、著しいガタ付き、異音などの異常がある場合は使用を中止し、販売店もしくは本書記載の製造元へご連絡下さい。



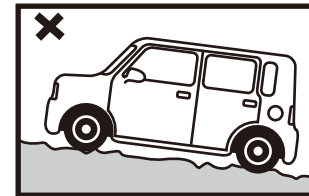
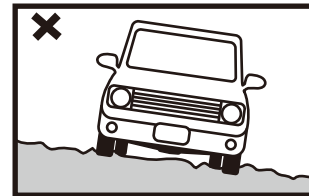
**注意**

- 必ずお車の車高をご確認下さい。また、バンパーの形状によっては干渉する恐れがありますのでご注意下さい。
- 安全弁は絶対に回さないで下さい。工場での生産時に、オーバー荷重を防ぐために調整されています。
- ジャッキのハンドルバーや支持台は、必ず付属のもの、または専用のものをご使用下さい。それ以外のものはご使用にならないで下さい。

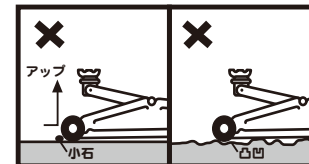
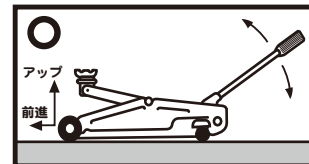
## ■ご使用方法と使用上の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

- 本製品は、水平で堅い地面または堅い板を敷いた上で使用して下さい。ジャッキの自由な動きを妨げるような不整地や不安定な傾斜地で使用すると、ジャッキが外れたり、破損する可能性があります。



- ジャッキがお車から外れたり、破損する恐れがあるので2つ以上のジャッキを同時に掛けしないで下さい。
- ジャッキアップと共にジャッキは前進します。設置面に小石や凹凸などの障害になるものが無い事を必ず確認して下さい。また、ジャッキアップ中に確実に前進していることを確認して下さい。前進しないと、ジャッキが外れたり破損する可能性があります。



**警告**

- 意図せぬお車の移動により、ジャッキがお車から外れたり、破損することを防止するため、必ずエンジンを切り、パーキングブレーキをかけたうえでギアを「ロー」に（AT車は「P」）に入れて下さい。また、お車が動かないよう輪止めをして下さい。
- ジャッキとお車の動く方向が異なると、ジャッキがお車から外れたり破損する恐れがあります。お車のタイヤを正面にまっすぐ向け、ジャッキはお車に対して斜めに入れないようにして下さい。
- ジャッキアップする際、必ずジャッキの支持台の中心にジャッキポイントをあわせて下さい。また、作業中にズレる可能性があります。安全のため、時々ご確認下さい。
- 必ずジャッキスタンド（馬ジャッキ）をご使用下さい。
- リリースバルブが確実に締まっていることをご確認下さい。
- ジャッキのハンドルバーは、上げる時や下ろす時以外は外して下さい。
- ジャッキアップしたままの状態、車両から離れないで下さい。
- ジャッキダウンの際は、車両の下に人や物などが無いこと、また、作業する人や他の人の体が車両に当たらないよう、充分注意して下さい。
- ジャッキを下ろす際には、必ず、本製品付属のハンドルバーで、リリースバルブをゆっくりと反時計回りに回して下さい。



**注意**

- ハンドルバーが確実に接続・固定されていることをご確認下さい。操作中にハンドルバーが外れると思わぬケガをする場合があります。
- ハンドルバーをしっかり握って操作して下さい。手が滑ると思わぬケガをする場合があります。
- ジャッキを下ろす際には、ジャッキのハンドルバー以外の場所に触れないで下さい。

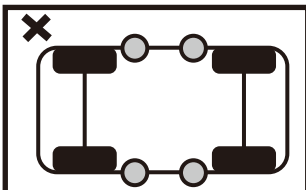


### 注意

- 安全弁は絶対に回さないで下さい。
- リリースバルブを3回転以上回しますとオイル漏れや故障の原因となります。緩めすぎに注意して下さい。

### <ジャッキアップの前に>

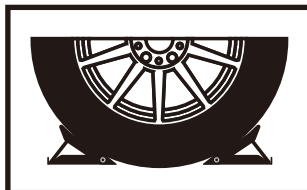
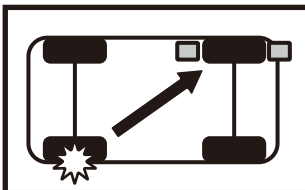
- 本製品に標準装備の支持台はジャッキアップの際、サイド掛けにはご使用頂けません。サイドで使用する場合は別売品のサイド掛けアダプターをご使用下さい。



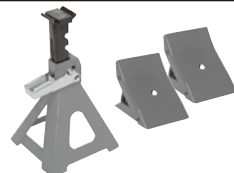
※別売品  
EM-226



- 輪止めを、ジャッキアップする反対(対角)側のタイヤに掛けて下さい。(前後に2個)



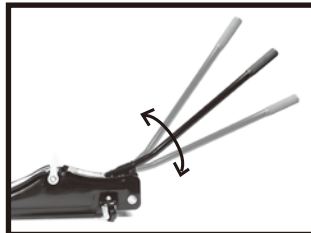
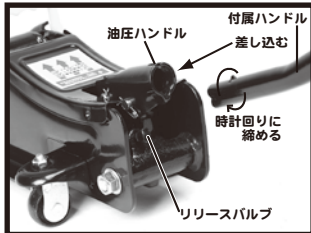
- 本製品は、ジャッキアップするためにご使用頂くもので、ジャッキアップ状態を維持するためのものではありません。作業の際は、ジャッキスタンド(馬)を必ずご使用下さい。



### <ジャッキアップ>

- ①ハンドルバーをリリースバルブに差込み、時計回りに回してリリースバルブを確実に締めして下さい。締め付けが不十分な場合、ジャッキアップできない場合があります。
- ②ハンドルバー先端の突起部をハンドルホルダーの溝に合うように差込み、上下に動かしますと、アーム部分が上がります。支持台がジャッキポイント近くまで上昇したら、一時中断し、支持台の中心をジャッキポイントにあわせて下さい。

- ③支持台の中心にジャッキポイントがかかっている事を確認した後、再度ジャッキアップを続けて下さい。支持台が上がり、車両が上昇します。



### <ジャッキダウン>

- ①ハンドルバーをリリースバルブに差込み、ゆっくりと反時計回りに回してリリースバルブを回して下さい。車両が下降します。  
※早く回すと車が急激に下降し大変危険です。

- ②錆や劣化を防止するため、収納・保管の際は、支持台を一番下まで下げ、ハンドルバーでリリースバルブを時計回りにしっかりと締め、雨や雪の当たる場所や湿気の多い場所を避けて保管して下さい。



## ■ご使用後の注意

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。



### 注意

- ご使用後は、支持台を一番低い位置に下げ、リリースバルブをしっかりと締めて下さい。油圧ピストンがシリンダー内に収納され、サビやキズからジャッキを守ります。
- 保管の際は、雨や雪の当たる場所や湿気の多い場所は避けて下さい。錆や劣化の原因となります。
- 移動や保管の際は、必ず本体の車輪を設置面にして下さい。縦置きや横置きの状態にしますと、オイル漏れや故障の原因となります。

## ■メンテナンス

⚠ ご使用になる前に必ずお読み下さい。

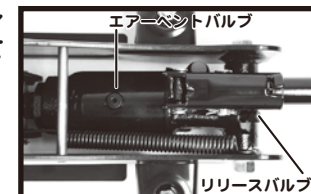


### 注意

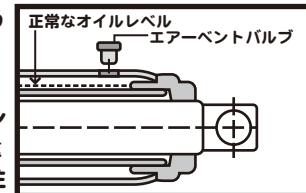
- リリースバルブを3回転以上回しますとオイル漏れや故障の原因となります。緩めすぎに注意して下さい。
- ジャッキのホイールなどの可動部分の動きが悪いと、ジャッキが破損する恐れがあります。時々、潤滑油を差して下さい。
- 作動油が少なくなった場合は指定の作動油を補充して下さい。(ブレーキオイル、アルコール、グリセリン、洗浄用モーターオイルなど、指定以外のもはご使用になれません。)
- 補充の際、ゴミや、ホコリなどの異物が入らないようにして下さい。
- 作動油は劣化します。3年毎に交換をして下さい。
- 作業を始める前に、必ず市販の廃油缶又は廃油箱・廃油剤等を使用して下さい。
- 作動油は石油系の物質です。補充や交換の際には通気性の良い場所で、引火しないよう火気から十分離れた場所で行って下さい。

### <オイルの補充>

- ①支持台を一番下まで下げ、水平な地面の上でカバープレートを開けて、エアイベントバルブをペンチ等で外して下さい。



- ②オイルが不足しているようであれば、給油口から「エマーソン純正オイル」または同等の油圧用オイル(ISOVG10~15)を少量づつ、給油口の下端まで注入して下さい。



エアイベントバルブより10ミリ程度まで補充して下さい。

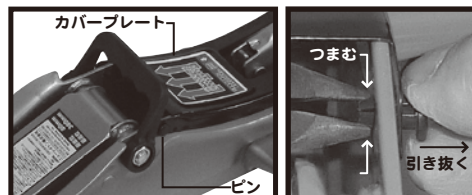


ジャッキ販売店、発売元へお問い合わせ下さい。

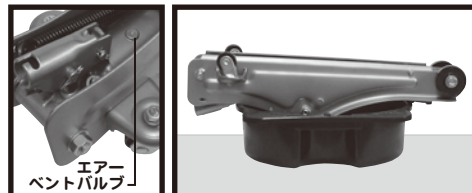
- ③オイルの補充が終わりましたら、エアイベントバルブを元の状態に戻して下さい。
- ④オイルの補充後、エア抜きを行って下さい(P5参照)。

## <オイルの交換>

①カバープレートを外します。  
支持台を一番下まで下げ、カバープレートを留めているピンの内側をペンチなどつまんで外側に引き抜いて下さい。



②オイルを抜きます。  
水平な地面の上でエアイベントバルブを外し、ジャッキを逆さまにして給油口からオイルを容器に排出して下さい。このとき、シリンダーが水平になるようにして全てのオイルを出して下さい。



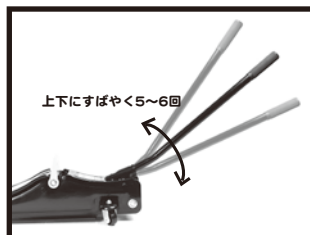
③<オイルの補充>の手順②～④に従って新しい油圧用オイルを注入し、カバープレートをピンで取付けて下さい。

## <エア抜き>

①水平な地面の上で支持台を一番下まで下げて下さい。  
②リリースバルブにハンドルを差込み、反時計回りに回して下さい。(2～3回転)



③エアイベントバルブを外して下さい。  
④油圧ハンドルにハンドルを差込み、上下にすばやく動かして下さい。(5～6回)



⑤エア抜きが終わりましたら、エアイベントバルブを元の状態に戻して下さい。  
⑥保管する場合は、ハンドルでリリースバルブを時計回りにしっかりと締めて下さい。  
※正常に動作しない場合は2～3回同じ作業を繰り返して下さい。

## ■万が一、事故や損害が発生した場合について

万が一、本製品の欠陥が原因となり事故や損害が発生した場合は、直ちに発売元までご連絡下さい。また、原因の究明にあたって、下記のような必要最小限の情報のご提供や、現品の回収をお願いする事があります。調査前に処分されないようお願い致します。

- 事故の詳細
- 使用状況
- 現品回収
- 損害のあった物の写真
- 医療機関の診断書
- その他、事故や損害の状況に応じて必要な情報など

## ■故障・異常の見分け方と処置方法

万一、不具合が発生した場合は、下記にもとづいて点検し、処置に困るような時や、原因のはっきりしない時、処置をしても正常に作動しない時は、お買い求めの販売店または、発売元にご連絡下さい。

状 況	原因と対策
上がらない	①リリースバルブがしっかり締まっていない。 →リリースバルブを時計回りに回して、しっかりと締めて下さい。
	②オイルレベルが低すぎる。 →オイルを補充して下さい。
自然に下がる	①リリースバルブがしっかり締まっていない。 →リリースバルブを時計回りに回して、しっかりと締めて下さい。
	②油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。
最高位まで上がらない	①オイルレベルが低すぎる。 →オイルを補充して下さい。
	②油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。
最低位まで下がりません	①油圧系統にエアやホコリが混入している。 →エア抜きを行って下さい。
	②リターンスプリングがはずれているか、老化している。 →可動部分に注油するか、スプリングを交換する。
スムーズに上がらない	①油圧系統にエアが混入している。 →エア抜きを行って下さい。